

横芝町の人口と世帯

<12月31日 現在>	
人 口	12,671 (+ 2)
男	6,091 (+ 7)
女	6,580 (- 5)
世帯数	3,084 (- 2)
( ) 内は前月比	



広報

横芝

発行所

山武郡横芝町横芝636番地

横芝町役場

電話 04798-2-1111(内)

郵便番号 289-17

おめでとう おばあちゃん

100歳の年輪 立合の伊藤つねさん



赤い頭布と陳羽織をつけて思い出を語るつねさん

今年の正月で数え百才を迎えたおばあちゃんが、横芝町に始めて誕生しました。このおばあちゃんは、屋形立合の伊藤つねさんです。

この長寿をお祝するため、去る一月五日、千葉県知事代理として、山武支庁長が来町され町社会福祉協議会長、町老人クラブ連合会長と一諸に伊藤さん宅を訪問いたしました。つねさんは、百才とは思えぬ元気で一行を迎え、山武支庁長はじめ皆さんのお祝のことはひとことひとことうなづき、また、祝品の赤いづきんと陳羽織を着られ、終始にこやかに応待してくださいました。

つねさんは、明治七年五月二日生まれ、明治三十四年に伊藤家に嫁入りし、五十八才でご主人に先だたれ、以後七十才まで息子さん夫婦と農業に従事していたとのこと。今では、子供三人に孫十二人ひい孫二十三人、今年の正月にもお酒好きのつねさんは、おおぜいのお孫さんやひい孫さんに囲まれお酒をさされ、ごきげんだったということですね。

県下では、つねさんのように今年百才を迎えられた方は十三名おられるそうです。いつでもでもご健康でありますようお祈り申し上げます。私達も健康に充分留意して、つねさんにあやかりたいものです。……

# 議会だより 補正予算案など 十八議案を可決 十二月定例会開く

昭和四十七年最終の定例議

会は、昨年十二月二十日に招集され、会期を三日間とし、会議は二十日、二十一日の二日間に行われ、開会されました。

本議会は、定例会のため町政に係わる一般質問が行なわれ、町営住宅の管理体制、学校給食、町の行政における執行部の姿勢のあり方等についての質問があり、これに対して町長をはじめ執行部側からの答弁がありました。

本議会上に提案された案件は昭和四十七年度各会計補正予算案、昭和四十六年度各会計決算認定案など、報告一件、議案十件、認定七件が提出され、慎重審議の結果、各案件とも満場一致で可決されました。その概要は次のとおりです。

の承認を求めるもの)

▼議案第一号 山武郡市広域行政組合と構成市町村との事務委託に関する規約制定について(山武郡市広域行政組合における事務の一部「火葬場および霊柩車の使用許可、使用料の徴収・し尿汲取申込書の受付、汲取手数料の納入通知書の配布および手数料の徴収」を関係市町村に委託することなどを定めること)について議決を求めるもの)

▼議案第二号 横芝町国民健康保険条例の一部を改正する条例制定について(老人医療一七十才以上の無料化は、従前は町の施策により実施されてきたが、今回、老人福祉法の改正による老人医療無料化に伴って、国保条例の規定の整備を行なうもの)

▼議案第三号 高令者医療の助成に関する条例の一部を改正する条例制定について(老人福祉法の改正に伴って、国保加入者以外の老人医療に対する無料化の町の助成措置を講ずるもの)

▼議案第四号 一般職の職員給与に関する条例の一部を改正する条例制定について

の承認を求めるもの)

▼議案第五号 昭和四十七年度特別期末手当に関する条例制定について(議会の議員、町常勤特別職および一般職の職員に対する特別期末手当の支給措置を講ずるもの)

▼議案第六号 町の区域内の大字および、字区域の変更について(屋形荒場地区における土地区画整理事業に伴って同地域の大字、字の区域の変更について議決を求めるもの)

▼議案第七号 財産の処分について(昭和四十六年四月に町が買収した栗山地先高橋学園跡を宅地造成「七二区画、一四、六〇六、七二平方メートル、一般住民に、四九七、七六二、〇七〇円で分譲するため議決を求めるもの)

▼議案第八号 昭和四十七年度横芝町一般会計補正予算案制定について(才入、才出ともに四三、九三三千元を追加し、総額九八〇、七三六千元とするもので、その才出の主なもの、職員給与改訂に伴う予算措置、その他道路工事業費、農業用暗渠排水工事費、東陽病院負担金などである)

の承認を求めるもの)

▼議案第九号 昭和四十七年度横芝町老人ホーム特別会計補正予算案制定について(才入才出ともに六一〇千円を追加し、総額一九、九九二千円とするもので、その才出の主なもの、職員給与改訂による予算措置を講ずるもの)

▼認定第一号 昭和四十七年度山武郡市衛生組合才入才出決算認定について(山武郡市で構成する山武郡市衛生組合が解散し、その業務が山武郡市広域行政組合に引き継がれたことにより、昭和四十七年度才入才出決算「昭和四十七年七月三十一日まで」を行なったもので、才入六一、五二五、三八六円、才出四〇、二四二、八〇二円、才入才出差引額二一、二八二、五八四円の決算認定を求めるもの)

▼認定第二号 昭和四十七年度山武郡市計算センター協議会才入才出決算認定について(前案と同様、山武郡市計算センター協議会の業務が広域行政組合に引き継がれたことによる解散に伴って、昭和四十七年度決算「昭和四十七年七月三十一日まで」を行なったもので才入三三、六三八、八八五円、才出一二、二二七、三九二円、才入才出差引額二一、四二一、四九三円の決算認定を求めるもの)

▼認定第三号 昭和四十六年度横芝町一般会計決算認定について(才入五九八、五八一、三三二円、才出五七九、七〇七、六九八円、差引残高一八、八七三、四三四円の決算認定について議会の認定を求めるもの)

の承認を求めるもの)

▼認定第四号 昭和四十六年度横芝町国民健康保険特別会計決算認定について(才入一三、六四五、九六六円、才出一〇、〇一一、七三三円、差引残高一三、五三四、二三三円の決算について議会の認定を求めるもの)

▼認定第五号 昭和四十六年度横芝町有線放送電話特別会計決算認定について(才入一六、四二五、七八六円、才出一四、五一六、五九九円、差引残高一、九〇九、二六七円の決算について、議会の認定を求めるもの)

▼認定第六号 昭和四十六年度横芝町老人ホーム特別会計決算認定について(才入一八、三八七、三四七円、才出一七、六六八、五〇三円、差引残高一、八一八、八四四円の決算について、議会の認定を求めるもの)

▼認定第七号 昭和四十六年度横芝町国民保養センター特別会計決算認定について(才入一、〇三一、〇四四円、才出一、〇三一、〇四四円、差引残高八八、六一一円の決算について、議会の認定を求めるもの)

## 心のこもった共募

### ご協力ありがとうございました

皆さんの心あたたまるご協力により昨年実施いたしました「赤い羽根共同募金運動」は、目標額をはるかに上廻る好成績のうちに終了いたしました。この貴重な浄財は、県共同募金会から恵まれない社会の人々や施設へ送金され、明るい豊かな社会づくりのかけ橋になると確信いたします。ご協力ありがとうございました。

#### 収入

社会福祉協議会 五〇、〇〇〇円

一般 二六二、一七七円

個人 一三、〇七三円

#### 支出

生活保護世帯 二二三、八五〇円

学校寄付金 三三、二〇七円

合計 四三四、〇五七円

病院、施設、老人ホーム 九一、四〇〇円

なほ、歳末募金運動についても、皆様方のご協力により

# 新春をかざる 町出初式開く

昭和四十八年の新春を飾る町消防団出初式は、一月八日横芝中学校校庭で、県及び近隣市町村の来賓多数をお迎えして盛大に行なわれました。寒風について、この日参加した団員は、本部分団以下十四



堂々たるポンプ車の分列行進

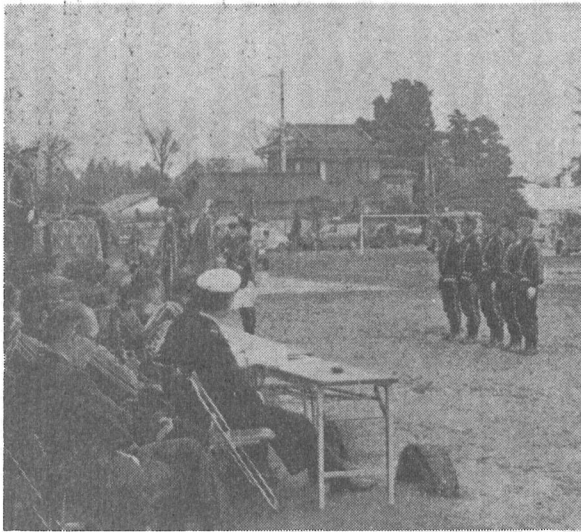
分団、横中少年消防隊及び八日市場市外三町消防組合横芝分署等の精鋭三百余名、校庭には、消防自動車ポンプ、小型動力ポンプなど二十九台が整然と配置され、町民や来賓の見まもるなかで、人員服装

点検、機械器具点検、横芝分署の新操法による模範操法、小隊教練、分列行進等キビキビとした動作で日頃の訓練の成果を披露してくれました。また、表彰式では、永年消防団員として、職務に精励された者、及び、消防活動協力者に表彰状が贈られ、続いて、町長の式辞、来賓の祝辞等があり、最後に給食センターうらの両総幹線水路で放水試験を行ない、盛会のうちに初式の幕を閉じました。

なお、表彰された方々は次のとおりです。

### 受賞者芳名(敬称略)

- 千葉県知事功労章 川島 幸
- 第三分団長 大木 治夫
- 第一分団長 幸



栄えある表彰を受ける人々

- 千葉県知事精勤章 勝又 祥夫
- 第十四分団長 浅野 実
- 第二分団長 中村 克彦
- 第八分団長 萩原 弦
- 第十分団長 西谷 金平
- 第十三分団長 小倉 昉
- 第十分団一部 小倉 昉
- 消防団長功労章 加瀬 利定
- 第十一分団長 平山 和夫
- 第四分団長 越川 武彦
- 消防協会長精勤章 越川 武彦
- 第六分団長 若梅 義郎
- 第五分団長 伊藤 満隆
- 本部分団一部 伊藤 邦夫
- 第三分団一部 伊藤 邦夫
- 第三分団一部 八角 幸一
- 山武支庁長表彰 林 一郎
- 第三分団一部 早川 嘉次
- 第二分団一部 片岡欣三郎
- 第七分団一部 真行寺達夫
- 第八分団一部 押尾 孝
- 第十分団一部 押尾 孝



- 第三分団二部 吉岡 総良
- 第四分団三部 鈴木 淳
- 山武支部長功労章 伊藤 進一
- 第九分団長 富 陸
- 第十二分団長 鈴木 滋明
- 第五分団一部 鈴木 滋明
- 山武支部長精勤章 石田 和之
- 第六分団三部 早川 忠勝
- 第二分団一部 川島 忠敏
- 第四分団一部 鈴木 文雄
- 第九分団二部 鈴木 文雄
- 第二分団一部 佐久間 薫
- 本部分団三部 太田 康雄
- 町長表彰(無火災表彰) 十五年 第十三分団一部 木戸台 伊藤 斎記
- 町長感謝状(施設協力者) ほか三十二名
- 消防団長表彰(優良分団) 第四分団一部 伊藤 斎記
- 本部分団二部 本部分団三部 本部分団三部 本部分団三部 本部分団三部
- 消防団長特別功労章 第四分団三部 鈴木 行雄
- 本部分団一部 小高 正一
- 手塚 繁一

- 第三分団一部 伊東 賢
- 第六分団一部 押尾 巨
- 第七分団一部 田村 弘一
- 第十分団一部 菅沢 弘美
- 本部分団三部 小川 馨
- 第三分団一部 小川 馨
- 消防団長功労章 大木 稔
- 第四分団一部 渡辺 逸夫
- 第一分団一部 早川 友明
- 第一分団二部 早川 智
- 第二分団一部 実川 澄夫
- 第二分団二部 早川 清孝
- 第三分団一部 早川 文夫
- 第四分団一部 押尾 澄夫
- 第三分団一部 伊藤 健一
- 第四分団一部 川島 仁
- 第五分団一部 平山 喜一
- 第五分団二部 鈴木藤太郎
- 第六分団一部 加藤 三夫
- 第六分団二部 市原 隆
- 第六分団三部 行木 武
- 第七分団一部 滝田 弥
- 第七分団二部 斎藤 善則
- 第八分団一部 関 英夫
- 第九分団二部 市原 志郎
- 第九分団一部 土屋 恒夫
- 第二分団一部 佐久間 和夫
- 第二分団二部 伊藤 憲一
- 第二分団三部 伊藤 憲一
- 第三分団一部 石井 徳治
- 第三分団二部 伊藤 清治
- 第三分団三部 芹川 武雄
- 第四分団一部 五木田 昇
- 第四分団二部 萩原 成一
- 第四分団三部 井上 哲夫
- 消防団長感謝状 (内助の功) 第三分団長夫人 川島けい
- 第一分団長夫人 大木雪江
- (消防活動協力者) 新島 木鳥 敏夫

# 新成人一九六名の

## スタートを祝う

### 明治神宮で式典

一月十五日「成人の日」は、おとなになったことを自覚し自ら生き抜こうとする青年を祝い励ます日です。

町では、一月十四日一九六名の門出を祝って、明治神宮で成人式を挙行いたしました。肌寒い天候にもかかわらず、希望と喜びに胸をふくらませて、この日参加した成人者一行九十名は、バス三台に分乗して午前九時四十分明治神宮に到着いたしました。式典は午前十時にはじまり、町長、議会議長、その他、先

## 二十歳の意見

### 成人文庫 若潮から

華の方々の激励や祝福を受けたあと、成人者を代表して新島の伊藤均さんが誓いの言葉を力強く読み上げ、最後に屋形の浅野桂子さんがお礼の言葉をのべて式典を終了いたしました。その後、成人者一同厳肅な気持で昇殿し、各自成人としての自覚と、よりよき社会人として心身共に健康な国民となることを神に誓いました。午後から国の最高議決機関である国会議事堂を見学、浅草で休憩をとり帰路につきましました。

## 成人とは何か

斉藤友紀雄

人生の道を歩き始めて二十年、今、「成人の日」を迎えようとしている自分である。今日まで「未成年」（早くいうと子供）というワクの中で両親や家族にあまやかされてのんびりと過してきたので、独立心というものがなかった全く、月日の経つのは早いも

成人になれば、なんといっても選挙権が得られ、政治に参加できることがうれしいと思う。大人としての第一歩を踏み出す自分には、今、かぎりなく大きな夢が広がっていく。二十歳……それは、人間としての大きな転換を要求されている時機と思う。私は、大きく成長したい。そして、悔いのない青春を送りたい。

### 明るく健康的な

川島恵美子

高校卒業後、和裁へと進み二年後の今、二十才を迎えました。初めは、和裁というものに抵抗を感じたりもしましたが、慣れてくるにつれておもしろみがわき、二年間という短期間ではありましたが、私にとっては有意義な毎日でした。しかしこれからは、一般にきびしさ、また、楽しさなどを、お勤めという体験の中から感じとって、もっと自分に強くなりたいと思います。

### 二十歳！青春！

そう私は若いんです。私はこの町が好きです。わが家、そして家族が好きです。この明るい町、明るい家庭に育って、ほんとうによかったと思います。

こんな世間知らずの私ですが、二十歳を迎えるにあたって、あまり物事にこだわらず自分自身を反省すると同時に、心身共に明るく、健康的な大人でありたいと思います。

### 自分なりに

中田 文恵

青年団の方から、成人式について話され、自分も成人式を迎えるのだということに気づかされた。以前は、成人式というと、女性としては着飾って式に参加することしか考えなかつた。しかし、式を自分の身近なものとして感じられるようになった。現在では、そのような考えだけではなく、社会的

に一個の大人と認められ、法律的にも責任を問われる立場になったということだ。現在の社会を考えると、価値観というものが多面化しているように思われる。だから、自分なりの価値観というものを持ち、多くの情報の中から自分なりに吸収し、対処していかなければならないと思う。しかし、現在の自分というものを考えてみた場合、どうだろうか、友達、先輩などの考えやアドバイスをきくと、それぞれ一理あるように思えて、自分の考えが定まっていな

## 税の申告と納税はお早めに 締切三月十五日

ことしも所得税の確定申告と納税の時期が近づいてまいりました。確定申告書の提出期限は、ご存知のとおり二月十六日から三月十五日までの間ですが、期限間近になりま

すので、税務署から用紙を送られた方は、必ずその用紙を使って申告して下さい。

◎勤務先は納税地になりません。

会社の役員や会社員の方で勤務先の所在地を納税地として誤って申告している例があります。勤務先を納税地とする場合は、認められませんので、申告書は、必ず住所（居住）地の所轄税務署へ提出して下さい。

◎「地方税」欄の記入をお忘れなく

納税者の手数をほぶくため所得税の確定申告書を出した場合には、住民税や事業税の申告は要しないことにな

ように思われ、不安とあせりを感じてしまう。しかし、自分自身なりに、背のびせずいろいろな人と話し、そして自分を見つめながら、マイペースで歩んでいきたいと思っ

ている。

編注 この作品については、特に横芝町青年団が、今年成人式を迎えられた皆様を祝福し成人文集を発行したもので、その中から紙面の都合で三名の方の作品を原文のまま掲載させていただきます。

◎三税の共同説明会開催  
所得税、事業税、住民税の正しい申告をしていただくために、申告書の書き方などについて共同説明会を開催いたします。

期日 二月十五日午後一時三十分から四時まで  
場所 横芝町中央公民館

◎三税の納税相談の実施  
申告書の提出と納付のご便宜を図るために次の日程により納税相談を行いますから、ぜひその日において願ひ申告を済ませていただきたいと思

います。

期日 三月五日午前九時三十分から午後四時まで  
場所 横芝町役場会議室

# 横芝の碑 (その五)

## 笠ぬいて

(伊藤先生の頌徳碑と句碑)

北清水と栗山の境に鎮座在します清水神社は、産土神としても又史蹟としても名高く附近里人の尊崇を得ています。この社の鳥居の傍には、根深石と三波石が並んで建てられています。これは旧上塚村出身の名士伊藤東一郎先生の句碑と頌徳碑です。

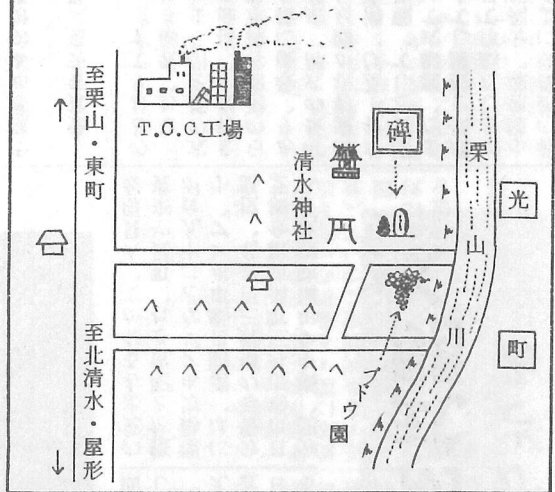
先生は明治二十二年北清水に生れ、医学を志して上京し二十五才にして医師となり、大正三年故郷清水で医院を開業されましたが、新知識による医療と貧富を厭わず特に貧者には医薬費を度外視する等の親切な診療は近隣の評判となり患者は常に門前に市をなす有様でした。そうした先生の高傑な人格は衆望を進め、山武郡医師会議長、上塚村長を始め幾多の要職に推され、又終戦後には栗山飛行場開拓の委員長として、開拓農民の指導に当る一方郷土の先覚者海保漁村の史蹟を県指定にするための努力、又上塚小学校々医としては当時蔓延を極めていたトラホームの撲滅を図る等実に八面六臂の働らきをされたのです。



こうした政治的手腕と科学的頭脳に勝れた先生は、又風雅の道にも深い造詣を持っておられました。中でも俳句を特に愛好されて、新派の俳人長谷川零余子の句誌「枯野」に親しみ、当時の文学青年齋藤重良の竹露氏や小学校長であった伊藤兵一郎の鉄弓氏と共に東雲吟社を創設し俳誌「しののめ」を刊行、自らも凡力と号して後輩の指導に当

ったりされました。いろいろな事情で「しののめ」の刊行は中止されましたが東雲吟社の系統は存続し、先生も凡力の俳号を本名に因んだ東一路と改められて、医業を御思路の一路氏に譲られて悠々として俳句の奥義を味わっておられました。昭和三十四年三月遂に長逝されたのです。先生の霊前に香華を手向ける朝野の名士は枚挙に暇ありませんでした。その中で俳句の友人某氏は「余りにも多忙な公務と社会奉仕に尽瘁される中で科学者として、又政治家という影に隠れて俳人としての先生の姿はうすれていたが、やはり私達には立派な俳句の先輩であり友であった、これから俳人としての先生を後世に伝え、私達の、又後輩の灯台としたい、遠い地下から見

頌徳碑附近略図



守って欲しい」と後尾は絶句にむせびながら深々と頭を垂しぼらせたものです。

先生が逝いてから何回かの歳月はめぐりましたが、俳句を嗜む人々は、若前に、蟬しぐれに、名月に、初水にと、在りし日の俳人東一路先生の面影を忘れ得ませんでした。そして誰からもなく持ち上ったのが、告別式の霊前で某氏が誓った「俳人としての先生を後世に伝える」というため

に句碑を建立、という話でした。ところが、この話が伝わると俳句仲間以外の元町村長さん其他の方々からも協賛の申込みが続き、句碑建立は何時か頌徳顕彰碑を併せて建立するということになり、昭和

四十三年四月、先生が好んで訪れたという清水神社の境内を場所として頌徳碑と句碑の除幕式が行なわれたということです。

写真の左に見える三波自然石が句碑で、笠ぬいて 秋の深さを 知る日かな 東一路 と刻まれています。

この句は、昭和十七年九月十日先生が上塚村長を退任された時の発句で、伊藤医院長(一路先生)はこの句について「父が村長退任後の心境は、責任を果し得て、自由になった一人の俳人としての感慨であつたらうと思う、余りにも複雑で、そして又、いろいろな才能の要素を持った父として、あらゆる身边に惹起する

問題が社会活動のきっかけとなって捨てておけず、多くの仕事を手がけ、それなりの功績を残したものの云々」と或書物で追想しておられますが、先生が各方面で活躍されその中に俳人としての名声も得ておられたことについて、海保漁村史蹟指定記念式の折「伊藤東一郎君の招待だから」と言って文学博士中山久四郎先生が来町された時「伊藤君俳句はどうだね」と話しかけておられたことが思い出されます。その時は仕事の関係で伊藤先生に随従していたのです。(本稿取材に当り、北清水在住の齋藤重良(竹露)さんに御協力をいただきました。)(給食センター小沢所長寄稿)

国をささえる若い力  
陸・海・空  
**自衛官募集**

詳細は、役場総務課へ



### すばらしい青春を

### 青年スクールで

### 受講生募集

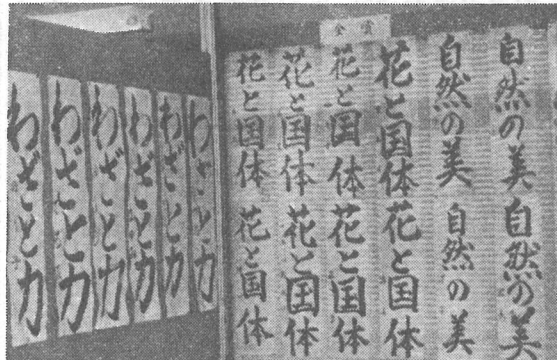
急激に移り変わって行く現代社会では、いろいろな情報を正しく理解する能力を身につけなければ、この社会から取り残されてしまいます。中央公民館では、新しい知識や教養を身につけるとともに、楽しい友達づくりの場として、また、青年諸君の話し合い、

## 建設のあゆみ

1 月 ~ 2 月

#### 着工及び工事中の事業

- ①道路舗装工事
  - 北清水 2 号線 687 m
  - 三本松 ~ 立会線 1,251.6 m
  - 屋形南線 1,001.3 m
- ②建築工事
  - 横芝小第六期増築 179.08㎡



よい子達の作品の数々

毎月第一土曜日  
2 開設する講座

コース	内 容	時 間
教養コース	社会、経済、歴史、人生結婚等に関する一般教養について	午後七時から九時まで
料理コース	調理実習・栄養の知識等について	午前十時から正午まで
茶道・生花コース	茶道・生花の実技	午後一時三十分から四時まで
ダンスコース	社交ダンスの実技	午後七時から九時まで
スポーツコース	卓球、バレーボール、バドミントンの実技	午後一時三十分から四時まで

※二コース以上の受講もできます。  
3 課外活動  
ハイキング、キャンプ、スキー、スケート、文集・新聞発行等

新春子ども会書初展が、一月二十日から二十五日まで中央公民館で開催されました。この書初展には、町内各地区子ども会から百八十点余りの力作が出品されましたが、審査の結果、次の方々の作品が優秀と認められ、一月二十一日、中央公民館で表彰式が行なわれ、賞状及び記念のトロフィー等が贈られました。

横芝町長賞  
町子ども会育成連協会長賞  
斉藤暁子(東町子ども会)  
町中央公民館長賞  
渡辺由紀子(東町子ども会)

## 力作百八十余 出品される

### 新春子ども会書初展

- 鈴木明美(東町子ども会)
- 横芝町議会議長賞
- 吉田義重(東町子ども会)
- 横芝町教育長賞
- 堀 絹枝(東町子ども会)
- 町青少年相談員連協会長賞
- 下島優子(栗山若葉子ども会)

4 参加資格  
横芝町内に居住または、勤務されている十八才以上二十五才までの男女  
5 申し込み  
二月十五日までに、中央公民館事務室まで申し込んでください。

### 固定資産課税 台帳の確認を

一月一日現在で調整した昭和四十七年度固定資産税の賦課のもととなる、固定資産課税台帳を、来たる、一月一日から五月二十日まで、地方税法の規定により役場税務課にて縦覧いたしますので、希望者はぜひこの機会に資産の確認をされまますようお願いいたします。



### 横芝句会一月例会

土屋 栗水  
石川 奇水  
宮山の静かにも注連飾られし  
奇藤ちくろ  
神木の注連に御幣の白々と  
若梅あやめ  
寒梅や枝ぶりにに花可憐  
千鳥 すみ  
霰降るひしめく船のたまりにも  
五木田信子  
残菊に名残り惜しむや初霰  
古谷 紅雲  
新築の成りて注連張るわが奢り  
木下石果子  
頑なの門閉しある注連飾り  
奥山 萌古  
寒紅梅寺院は深き驛りもつ  
句城  
何か忘れ居て寒梅を見つめた  
佐久間美枝子  
故郷やどこもかしこも注連飾り  
伊藤 保人  
老幹の運速のありて寒の梅  
林 義村  
お手植の一本清しく注連飾る  
権名 寿  
巨杉の寒風に吼え注連飾る  
加藤 庄長  
一発の鳴神震走らせる  
佐久間久子  
初霰茶碗持ち出し受ける孫  
川島 啓明  
出航の洋の丸みや注連はずす  
斉藤砂丘子  
あられ散る舗道に人と別れけり  
次回二月十七日 一時  
兼題 春近し・蓬